

令和 5 年度品目団体輸出力強化支援事業

台湾養鶏協会訪問 面談実施報告書

令和 6 年 2 月

日本養鶏協会

<台湾養鶏協会訪問>

目的：台湾養鶏協会と面談することで台湾の鶏卵、養鶏事情の調査と情報交換・意見交換を目的とする。

実施日程：2023年12月13日（水）10時～12時

実施内容：台湾養鶏協会に日本養鶏協会（鶏卵輸出協議会）より3名と通訳 林氏が訪問、現地でJTB 河村氏が合流した。

台湾の養鶏協会との面談実施内容は下記のとおり。

内容は事前共有した質問を中心に意見交換 [内容：①②③参照]

①台湾養鶏協会からの書面回答(中国語①-1 と日本語訳①-2)

②台湾養鶏協会の事業概要説明用資料(適宜日本語訳付) スライド

③その他面談時意見交換

実施順番は台湾養鶏協会の概要説明、台湾の養鶏事情をスライド(その内容は②)で説明を受け、その後事前に提出していた質問書の回答をする予定であったが前段の説明でかなり時間を擁し質問書に対する回答を途中で切り上げ後日書面回答とした。その内容は①-1、①-2になる。その他質問書に反映出来なかった内容をヒアリング。報告書上は③とした。



台湾の養鶏協会のビル外観

ビル内 案内 (9階)

意見交換会内容：中国語(質問書に対する台湾の養鶏協会からの回答書面全文)①-1

日本雞卵輸出協議會會長落水日朗等人員(名單如下)，訂於 12 月 13 日(星期三)上午 10 點來協會拜訪，日方來訪名單如下：

- 1)雞卵輸出協議會 會長 落水日朗
- 2)日本養鶏協會 業務第一部長 野澤篤也
- 3)雞卵輸出協議會 事務局長 青木邦夫
- 4)JTB 日本的負責人 河村先生
- 5)翻譯隨同 林怡廷小姐

< 問題 >

一、若日本國內發生了高病原性禽流感(H5N1)，對於台灣市場，我們目前為止所採取的區域政策並不適用，請問今後與香港和新加坡採取一樣的區域政策是否可能呢？

答：

- 1.專案蛋品管制措施為輸入時須檢附輸出國動物檢疫機關簽發之動物檢疫證明書正本，並由輸出國動物檢疫機關確認來源牧場符合我方要求後，於動物檢疫證明書上加註「來源牧場於蛋品輸出前 28 天未發生新城病、高病原性家禽流行性感冒及 H5、H7 亞型低病原性家禽流行性感冒病例」聲明事項。專案蛋品輸入時應由農業部動植物防疫檢疫署（防檢署）實施逐批臨場檢疫，確認貨證相符後，始得判定檢疫合格輸臺。倘檢疫不合格者將予以退運或銷毀，不符規定之專案蛋品不會進到國內。
- 2.依據 WOA 相關規範，非疫區認定可採「區域化」認定，日本、美國與歐盟等對禽流感亦採取區域化認定。防檢署參考 WOA 規範與前揭國家等執行實例，規範輸臺之專案蛋品須來自禽流感「非疫牧場」，且適用所有輸臺專案蛋品。

二、接續第一題，針對台灣市場的日本產雞蛋、液蛋等加工品的輸出，以目前 2024 年 6 月 30 日為止的措施來說，限定為從輸出年月日回朔到前 28 日，這期間未發生禽流感的農場產品才能進口，您認為這個限制的措施有可能會延長嗎？

答：會。

依據 WOA 相關規範，非疫區認定可採「區域化」認定，日本、美國與歐盟等對禽流感亦採取區域化認定。防檢署參考 WOA 規範與前揭國家等執行實例，規範輸臺之專案蛋品須來自禽流感「非疫牧場」，且適用所有輸臺專案蛋品。

三、關於輸出到台灣的日本產雞蛋以及其相關製品，現在都需要課 30%的關稅，所以目前在台灣較無市場競爭力，因而沒有出口到台灣。請問未來減輕關稅的可能性為？

答：站在維護國內蛋雞飼養業者權益，當然不希望調降關稅。

但雞蛋是民生必需品，農業部表示，現在及未來面臨的狀況不同，國內已有進口經驗，且為了不影響國內雞農收益，並兼顧消費者權益。因此提出建議可研擬限期限量的季節性關稅調降，且不能無限制調整關稅，以避免影響國內雞農權益。

四、聽聞在台灣是以「統一包銷制度」的模式，進行雞蛋的生產、販賣，聽聞雞蛋價格則是由「中華民國養雞協會台灣蛋雞事業產銷督導委員會」制定，請問現在還是以這樣的方式進行定價嗎？

答：對，台灣雞蛋銷售大部分是由蛋農與蛋商以「包銷制度」的模式進行，少部分是蛋農自產自銷或蛋農與企業(蛋品加工廠、飼料廠)合作。

蛋價的形成是由「蛋價評議委員會」(產銷雙方派代表組成，銷售代表佔大部分)，依市場產銷狀況調整，每次漲跌介於 2~3 元/斤之間，此種機制已行之數十年。

五、關於台灣輸入帶殼雞蛋，從 2023 年 1-8 月的統計來看，不論是金額或數量，從巴西進口的都大幅增加，請問這是有什麼特別的理由嗎？

答：巴西是全球重要農業生產大國，更為全球雞蛋主要來源國。巴西雞蛋品質受到許多重視食安國家的肯定，其中日本、新加坡、中東都有從巴西進口，且價格也相對合理並具有競爭力。專案進口期間，巴西進口蛋來源畜牧場未有禽流感發生，且未施打禽流感疫苗，符合專案進口資格。

六、為了擴大日本產的雞蛋在台灣在市佔率，請問您認為日本的蛋農該注意那些部分呢？

答：符合台灣檢疫規定，進口後售價在市場要有競爭力，雞蛋鮮度及品質要能獲得消費者信賴

七、關於台灣的保存期限的規則，有沒有機會在未來有調整的可能呢？

答：保存期限是由產品供貨人自行決定，因影響因素太多，如原料鮮度品質、製程、產品運輸方式、儲存技術、販售環境...等都可能影響產品保存期限，故衛生機關亦未有明確規範。

意見交換会内容：日本語訳(質問書に対する台湾の養鶏協会からの回答書面全文) ①-2

12月13日(水)10:00 鶏卵輸出協議会の落水日朗会長他(以下、日本側参加者)が台湾養鶏協会を訪問。回答書面と面談時回答含む内容は以下のとおり。

日本側参加者

- 1) 鶏卵輸出協議会 会長 落水日朗
- 2) 日本養鶏協会 業務第一部長 野澤篤哉
- 3) 鶏卵輸出協議会 事務局長 青木邦夫
- 4) 株式会社JTB 河村担当
- 5) 随行通訳 林怡廷氏

台湾側参加者

- 1) 社團法人中華民國養雞協會 邱時恩 理事長
- 2) 社團法人中華民國養雞協會 王建培 秘書長
- 3) 社團法人中華民國養雞協會 黃榮珍 蛋雞組組長
- 4) 華民國雞蛋運銷合作社 吳天福 理事主席
- 5) 大武山牧場科技股份有限公司 魏尚將 總經理

<質問1>：

日本で高病原性鳥インフルエンザ(H5N1)が発生した場合、台湾市場においては、これまでの地域政策は適用されないと認識している、今後、香港やシンガポールと同じ地域政策を採用することは可能か。

面談中回答：WOHの基準にしたがっている

<回答>：

1. 卵製品の管理措置としては、輸入時に輸出国の動物検疫当局が発行した動物検疫証明書原本を添付し、輸出国の動物検疫当局が、原産地農場がわが国の要件を満たしていることを確認した後、動物検疫証明書内に「卵製品の輸出前28日間に、原産地農場においてニューカッスル病、高病原性家禽インフルエンザ及びH5亜型及びH7亜型の低病原性家禽インフルエンザの発生がない」という一文を加筆する必要がある。

その上で、卵の輸入に際しては、農務部動植物検疫局(DAPHIQ)がバッチごとに検疫を行い、商品と証明書が一致していることを確認後、はじめて台湾への輸入資格があると判断する。検疫不合格の場合、卵は返品または廃棄され、検疫不合格の卵は台湾に輸入されない。

2. WOAの規定によると、非感染地域は「地域化」によって特定することができ、日本、米国、欧州連合(EU)なども鳥インフルエンザの地域化を採用している。動植物防疫検疫署は、WOAの規則と前者の国の実施例を参考に、台湾に輸出される卵製品は鳥インフルエンザに「感染していない農場」のものでなければならないと定めており、台湾に輸出されるすべての卵製品に適用される。

<質問2>：

最初の質問の続きだが、台湾向けの日本産の卵や液卵などの加工品の輸出について、2024年6月30日で終了する現行の措置では、輸出する年月日より28日前の間に鳥インフルエンザが発生していない農場のものしか輸入できないという制限があるが、この時限措置が延長される見込みはあるのか。

<回答>：

WOAHの規定では、非感染地域を「地域化」として認定することができ、日本、米国、EUも鳥インフルエンザの地域化認定を採用している。動植物防疫検疫署は、WOAHの規則と前者の国々の実施例を参考に、台湾に輸出する卵製品は鳥インフルエンザの「非感染農場」からのものでなければならないと定めており、これは台湾に輸出するすべての卵製品に適用される。

<質問3>：

台湾に輸出される日本の鶏卵とその関連製品については、現在30%の関税がかかるため、台湾市場での競争力がなくなり、輸出が進んでいないが、今後の関税が引き下げられる可能性はあるか？

<回答>：

台湾国内の鶏卵農家の利益を守るため、関税を引き下げたくないのは確かだ。しかし、鶏卵は人々の生活必需品であり、農業部は、現在と将来では状況が異なり、鶏の輸入にはすでに経験があり、国内養鶏農家の収益に影響を与えず、また消費者の利益を考慮しなくてはならないとしている。国内養鶏農家の利益に影響を与えないよう、時期や数量を制限する季節性の関税引き下げを展開し、無制限で関税は調整できないようにすることを提案している。

<質問4>：

台湾の鶏卵の生産・販売は「統一買取販売制度」で行われており、価格は「中華民国養鶏協会台湾鶏卵生産販売監督委員会」が決定していると聞いているが、現在もそのような方式で行われているのか。

<回答>：

台湾の鶏卵販売のほとんどは、鶏卵農家と鶏卵業者による「引受方式」で行われており、ごく一部は鶏卵農家による自主販売、または鶏卵農家と企業（鶏卵加工工場、飼料工場）との共同販売となっている。

卵の価格は「卵価格評議委員会」（生産者と販売者双方の代表で構成され、販売者の代表が過半数を占める）が市場の生産・販売状況に応じて調整し、1回の増減は1斤当たり2～3元の間で行われる仕組みで、数十年前から実施されている。

<質問5>：

台湾の殻付き卵の輸入について、2023年1月から8月の統計では、ブラジルからの輸

入量、数量ともに大幅に増加しているが、何か特別な理由があるのか。

面談中解答：台湾で卵の生産量が減少。ブラジルは鳥インフルエンザが発生しておらず
鶏卵の生産量も多いため。

<回答>：

ブラジルは世界の主要な農業生産国であり、世界の卵の主要な供給源。ブラジルの卵の品質は、日本、シンガポール、中東など食の安全を重視する多くの国から認められており、価格も比較的リーズナブルで競争力がある。本事業の輸入期間中、ブラジル卵を輸入した畜産農家では鳥インフルエンザの発生はなく、鳥インフルエンザワクチンの接種も行われていないことから、本事業の輸入資格を満たしている。

<質問6>：

台湾市場で日本産鶏卵のシェアを拡大していくためには、日本の鶏卵生産者は何に重点をおけばよいか？

面談中回答：価格品質において日本産卵は優位であり、検疫問題が障壁になっている。

<回答>：

台湾の検疫規制を遵守すること、輸入後の市場での価格競争力、消費者に信頼される卵の鮮度と品質である。

<質問7>：

台湾で賞味期限に関するルール作りのような動きはあるのか？

面談中回答：定めていない。保存期限がその場その場で違うことが理由。衛生福祉部に申請して認証を受けている。自主ルールで生んでから21日間生卵OK。
輸出の場合、相手がいるので平均60日間（加工用）

<回答>：

賞味期限は製品の供給者（生産者）が決めることであり、原料の鮮度や品質、製造工程、輸送方法、保管技術、販売環境など、賞味期限に影響を与える要素が多すぎるため、衛生当局による明確な規定はまだない。

翻訳：ASIA MART

注) 以下の資料、数値は台湾の養鶏協会様が独自で集計、調査した内容になります。予めご了承ください。

②台湾の養鶏協会の事業概要説明用資料(適宜日本語訳付)



中華民國養雞協會組織圖 及蛋雞產業簡介

中華民國養雞協會
王建培秘書長
2023-12-13



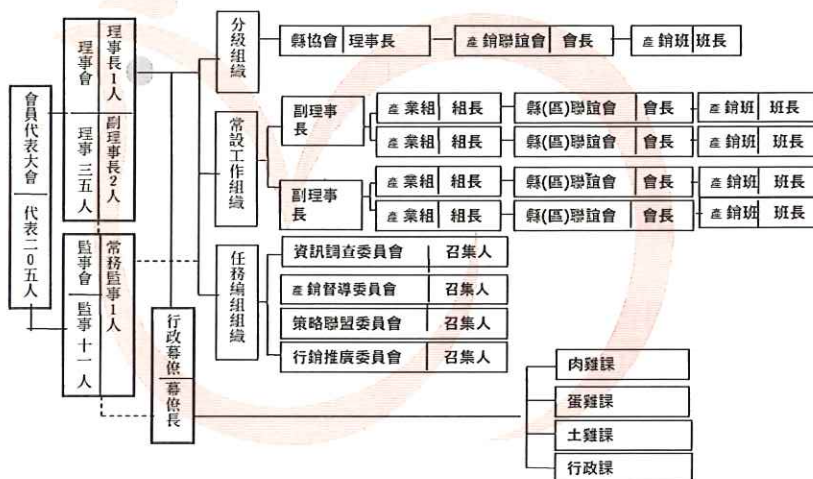
中華民國養雞協會

- **成立:** 民國52年(1963年) 7月設立
- **組成:** 台湾の養鶏業者の産業団体
- **役割:**
 1. 政府と業者の架け橋
(業者の意見を集め、政府に進言)
 2. 政府方針や計画を実施、サポート
(生産、販売のインフォ集め、生産調整を政府への働きかけ)
例: 2017年の鶏卵の農薬問題で消費が下がった際、政府に報告



中華民國養雞協會 組織架構圖例

*県、市の代表の中から会員代表205名を選出、その中から理事長が選ばれる



111年(2022年)度養雞產業生產量與產值

- 農業產值(農業生產量 價格)5,625億元
- 畜牧產值(畜牧生產量 價格)2,042億元(農業生產量全体に対しての占有率36.3%)
- 養雞產值(養雞生產量 價格) 865億元(畜牧生產量全体に対しての占有率 42%)

□ 各雞種產量與產值(鶏の品種別生産量)：

- 白肉雞(ケージ飼い鶏)：產量2.63億隻 (羽)，產值315億元
- 土雞(自然飼育 鶏)：產量 1.11億隻 (羽)，產值224億元
- 雞蛋(鶏卵)：產量 82.4億枚 (個)，產值325億元

* 1NT\$ (元) = 4.7円換算

資料來源：111年農業統計年報，農業部



臺灣地區肉品及蛋品消費量

2022年 台湾における国民一人あたりの肉の年間消費量

依據111年度糧食供需年報資料，國人每年每人肉類與蛋品消費量為：

- 豬肉(豚肉)：36.00公斤(kg)
 - 牛肉：7.34公斤(kg)
 - 羊肉：0.96公斤(kg)
 - 禽肉(鷄肉)：43.12公斤(kg)
 - 魚肉：16.13公斤(kg)
 - 蛋類(卵製品):20.35公斤(kg)
- 雞蛋佔 卵のみ350枚(個)

資料來源：111年糧食供需年報



蛋雞飼養概況(養雞飼育概況)

種雞場(生產者)：5家 (大溪、富祥、咏翔、永光牛稠埔、克盈)，
自國外進口(海外輸入会社) 海蘭(Hy-Line)、龍門(LOHMANN)、
伊莎(ISA)、海碩士(HISEX)、海斯(H&N NICK)等蛋種雞

蛋種雞進口量(外国輸入ひな数)：約30~33萬隻(万羽)

蛋雞飼養戶(養雞事業社数)：約1,838戶

飼養產蛋隻數(年間飼育数)：約3,340萬隻(万羽)

年產雞蛋數(生産個数)：約84億顆

112年第1季畜禽調查統計

在養規模(隻)	在養場數(場)	占總場數比(%)	在養隻數(隻)	占總隻數比(%)
1-9,999	491	23.95	1,844,707	4.31
10,000-19,999	694	33.85	10,292,145	24.02
20,000-29,999	469	22.88	11,178,108	26.09
30,000-49,999	275	13.41	10,031,095	23.41
50,000-79,999	93	4.54	5,636,511	13.16
80,000以上	28	1.37	3,859,474	9.01

112年第1季平均規模為20,899隻；在養場數未含73場出清場。

2023年度シーズン1の養鶏平均数量は20,899羽で、在養場数には生産していない73カ所は含めていない

蛋雞產業現況

依據本會**112年第1季**畜禽調查統計

● 蛋雞場在養戶數**2,123**場

(卵の養鶏場)

● 在養隻數**4,284**萬隻

(卵を生産する羽数)

雞蛋主要生產區(112年第1季)

地區	彰化縣	屏東縣	嘉義縣	臺南市	高雄市
在養量(萬隻)	1,938	692	481	407	317
占全國比	45.3%	16.2%	11.3%	9.5%	7.4%

雞蛋產銷鏈與通路



近年雞蛋產銷及價格



③その他面談時意見交換内容

- ・冒頭、邱理事長より挨拶。台湾と日本は長期的に友好関係にありさまざまなビジネス関係が確立されている。台湾の卵の消費は年々増加しており、現在の消費量は 360 個/人/年となっている。私自身はブロイラーの生産者だが、鶏卵については魏総経理初め専門家が同席しているので意見交換をお願いしたい。面談を通じてお互いの良い面を学びたい。
- ・続いて落水会長より、日本養鶏協会の概要説明と鶏卵輸出協議会の概要について説明。
- ・台湾で鶏卵の価格が下がった場合、国の方から法律に基づいて何か措置を講じることがあるのか。単なる協力・以来ベースなのか。
⇒供給過剰になった場合、早めの鶏の淘汰のため政府から補助金が出る。
その他冷蔵設備の補助 PR の費用の補助はある。過去 1 回のみだが鶏卵を肥料に転用したこともある。
- ・日本の積立て基金の費用負担割合は 業者 3 : 政府 1 の割合。台湾は逆の比率である
台湾の養鶏の農家は一軒あたり 2 万羽~3 万羽の飼養羽数が中心で、日本に比べて規模が大きくなく、資金的な余裕がない。
- ・台湾での養鶏、機械化は進んでいるのか？小規模農家が多いため依然として人手を介した形態が主流である。
- ・台湾では自社農場で洗卵までやるところもあれば、外部の専門の洗卵場に農場から出荷する。日本では大部分が洗卵まで自社でやる（GP センターを併設している）
- ・日本の農場の規模はどの程度か？大小いろいろとあるが、10 万羽以上が半数以上である。ひとつの農場で 100 万羽飼養しているところもある。
日本の生産者規模 NO.1・NO.2 で日本全体の 50%を占めていると聞いたことがあるが。
⇒大手 2 社で 50%を超えるということはない。
- ・日本全体では 1 億 4,000 万羽を約 1,800 の生産者で飼養している。
- ・日本の大規模農場は、すべて自社経営かもしくは協力農場のようなグループとして経営が行われているのか。日本は会社としては別会社だがグループとしてとらえれば 100 万羽規模というところもある。地域会社がグループを形成し 100 万羽を全国に分けて飼養するとかいろいろなケースがある
- ・台湾での生産コストはどの程度か。
2~3 万羽の規模の農場で毎日 2 万 3,000 個の鶏卵を生産。
生産コストは台湾と日本では飼養方法が違っているので単純には比較できない。台湾は日齢

の違う鶏をいくつかのロットに分けて飼養、日本はオールインオールアウトが基本。

- ・日本で強制換羽は行うのか？日本では480日齢で1ヶ月行う。
- ・日本は95～96%がゲージ飼い。台湾は80%が天候やウイルスの影響を受けやすい開放鶏舎である
- ・台湾の一般的な飼料の17%がタンパク質。台湾の飼料はいろいろと配合を考えているが日本はそうではない単純な飼料という印象をもっている。
⇒日本も同様飼料の配合はいろいろと考えている。
- ・鳥インフルエンザの発生時期について
日本は11月～3月、12月がピーク、台湾は12月～3月がピーク、原因は渡り鳥で日本と同じである。毎年飛来ルートが一定しているので、韓国・日本で発生が増える
と要注意。
- ・日本の鶏卵の現在の平均単価は？現在は230円/kgである。46台湾ドル/kg相当。
- ・CPTTP（環太平洋パートナーシップ）に日本は加盟しているが、10年から15年で関税を引き下げゼロにしていく。今年の輸入は農業部が特別に許可したもので、仮に台湾もCPTTPに加盟、関税引き下げとなると、台湾の養鶏農家は厳しい状況になる。
- ・日本国内で生食用の鶏卵の比率は？業務用以外でスーパー向けなどはほぼ100%である。日本は生食の文化が根付いているため。
- ・鳥インフルが発生した際の対処方について
すべて殺処分（100%焼却）発生農場は、20日間閉鎖、21日目に解除、22日目に検査を行い問題なければ再開。

<総括>

今回2時間にわたり台湾の養鶏業界関係者と意見交換・情報交換を実施した。

台湾側関係者は事務局、協会会員の生産者、運送会社含め6名が出席。

台湾側から台湾の養鶏産業の概要について丁寧に説明いただき、また日本の養鶏産業に対しても多くの質問が出され、関心の高さがうかがえた。

関税率については、日本に比べ小規模農家が多いことから、供給不足となった際の緊急輸入の必要性は認めるものの、品質と価格競争力のある日本産鶏卵の輸入増に対する警戒感は強いとの印象を受けた。

香港と違い街中のスーパーの売り場で日本産鶏卵を見かけることはほとんどなく、日本産鶏卵の認知度は高くない。ただし、日本産鶏卵に対する期待も伺え、地道な日本産鶏卵の啓蒙・PR活動が続けていけば、政府の大きな方針転換がない限り輸出拡大の余地はあると感じた。